

2018年度経営計画

～新たな成長への攻め

2018年度の重点施策

2018年度は「新たな成長への攻めの強化」を掲げ、中長期的な成長に向けた基盤整備に注力するとともに、新たな収益事業の創出に向けた準備に着手します。このため、2018年度は投資の大半をCVS事業に振り向ける計画です。経営統合に伴う投資が一段落することから、2019年度以降は基本的に営業キャッシュ・フローの範囲内で投資を進める方針とする予定です。

2018年度 投資総額 **1,400億円**

投資額	
施策別内訳	
店舗基盤の強化	1,050億円
商品力の強化	120億円
店舗オペレーションの強化	200億円
金融・EC周辺事業の収益基盤の整備	30億円 + α
セグメント別内訳	
CVS事業・HD・新規	1,270億円
GMS事業	130億円

① 既存店の『質』の向上

	CVS	GMS
店舗基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ブランド統合完遂 ビルド・アンド・スクラップ推進 既存店改装、施設改善 高質店の出店等 	<ul style="list-style-type: none"> UDリテール(株)事業 既存店改装、施設改善 高質店の出店等
商品力の強化	<ul style="list-style-type: none"> 中食品質向上 設備投資 新型コーヒーマシン導入等 	<ul style="list-style-type: none"> 惣菜プロジェクト推進 (チームMDでの商品開発、売場改装)等
店舗オペレーションの強化	<ul style="list-style-type: none"> 業務効率化 (新型店舗設備導入等) 	<ul style="list-style-type: none"> システム投資(新レジ導入等)

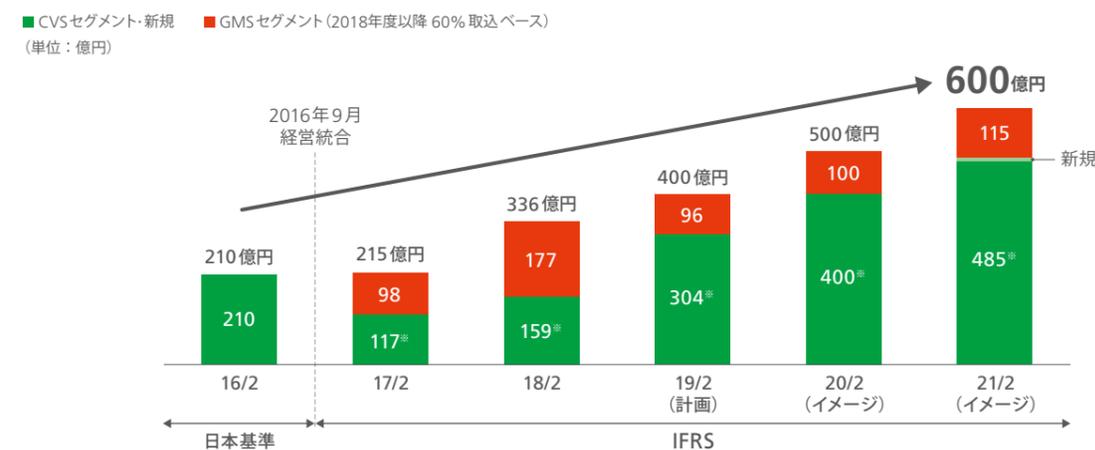
② 新規収益事業の創出

金融・EC周辺事業の収益基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> 自社金融ビジネスの取り組み 顧客データの整備 ポイントサービスの顧客利便性向上・スマホ化等
-------------------	---

の強化～

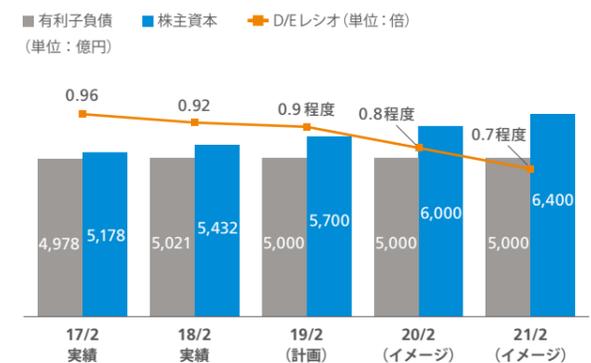
利益成長のイメージ

CVS・GMS両事業とも将来の懸念の払拭として、2017年度に不採算店舗の閉鎖と減損処理を前倒しで進めたことから、2018年度以降、減損リスクは大きく低減していく見込みです。計画最終年度である2020年度には新規収益事業からの利益貢献も視野に、グループでの親会社の所有者に帰属する当期利益600億円を達成することを目標としています。



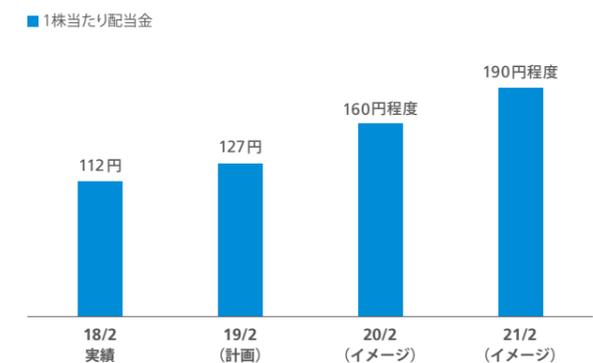
有利子負債とD/Eレシオ

2019年度以降も積極的な投資を継続するため、有利子負債は横ばいの5,000億円程度で推移する見込みですが、増益に伴う株主資本の積み上げによりD/Eレシオは0.7倍程度まで改善する計画です。



配当政策

連結配当性向40%を目処に、安定的かつ継続的に連結業績に見合った成果の配分を行っていきます。



店舗の高質化

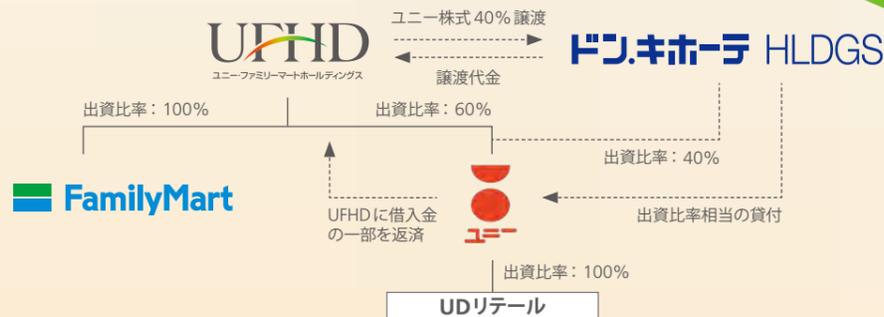
「新たな成長への 攻めの強化」に 向けた取り組み

(株)ドンキホーテホールディングスとの資本・業務提携

2017年8月に、(株)ドンキホーテホールディングスとの間で資本・業務提携に関する最終契約書を締結し、同年11月には当社が保有するユニー(株)の発行済株式のうち、40%の株式譲渡が完了しました。

資本・業務提携のねらい

今般の資本・業務提携により、当社グループが展開するCVS事業及びGMS事業と(株)ドンキホーテホールディングスのディスカウントストア事業における、それぞれの強みやノウハウを活かした協業と、相互補完効果の発現を期待しています。加えてユニー(株)において、資本を含めた緊密な連携を通して、若年世代を含めた客層の拡大やディスカウントストア事業ならではの店舗展開・店舗運営のノウハウを活用し、新たなGMS事業を創生していきます。



新会社UDリテール(株)を設立

2017年11月には、ユニー(株)と(株)ドンキホーテホールディングス両社協業によるダブルネーム店舗「MEGAドン・キホーテUNY」の運営主体として、ユニー(株)の100%子会社であるUDリテール(株)を設立し、ユニーから業態転換する店舗の資産を吸収分割によりユニー(株)から同社に移管しました。

ダブルネーム店舗がオープン

ユニーからの業態転換1号店として、2018年2月に「MEGAドン・キホーテUNY 大口店」がオープンしました。3月までに合計6店舗がオープンし、売上・客数ともに想定を上回る好調なスタートを切りました。

「ファミリーマート」店舗を通じた共同実験

2018年6月、都内の「ファミリーマート」3店舗において、ドン・キホーテ店舗の品揃えや売場づくり、運営手法を取り入れた共同実験を開始しました。



2016年9月の経営統合以降、ユニー・ファミリーマートホールディングス(株)は「統合の完遂」を最優先事項とし、各事業会社の強みを融合させたグループシナジーの最大化と、コンビニエンスストア事業における「サークルK」「サンクス」店舗の「ファミリーマート」へのブランド統合に取り組んできました。

金融・ECビジネスの本格化に向けて

決済手段の多様化やポイントを活用したマーケティングなど、小売業の強みを活かした金融ビジネスを新規成長分野として確立するため、金融・EC周辺事業を担うグループ会社との関係強化を進めました。

(株)UFIFUTECH発足

ファミリーマートのネットショッピングサイトを運営していた(株)ファミマ・ドット・コムは2017年9月、(株)ファミリーマートが保有する同社の全株式を当社に移管するとともに社名を(株)UFIFUTECHとし、フィンテック関連ビジネスを展開する新会社として生まれ変わりました。電子マネーやクレジット、ポイント、顧客ID等を含むグループのフィンテック関連事業を推進していきます。

ポケットカード(株)の共同公開買付による関係強化

(株)ファミリーマートは2017年11月に、「ファミマTカード」を運用するポケットカード(株)の株式を、伊藤忠商事グループとの共同公開買付により取得しました。これにより(株)ファミリーマートと伊藤忠商事グループが保有する同社の株式は合計で80%となります。この関係強化により、今後の新規成長分野と位置付ける金融ビジネスをさらに強化していきます。

新規収益事業の創出

ユニー(株)が(株)UCSを完全子会社化

ユニー(株)はグループ会社でカード事業・保険リース事業を展開する(株)UCSの株式を株式交換により取得し、2018年5月に完全子会社化しました。ユニーの店舗基盤にUCSのビジネスノウハウを融合させ、マーケティング施策の強化や顧客基盤の拡大を図るとともに、GMS事業の成長に見合ったシステム投資を行うことで、金融ビジネスの強化と経営効率化によるグループの収益性向上を図ります。

コンビニエンスストアのブランド統合完遂

2016年9月の経営統合から進めてきた「サークルK」「サンクス」店舗の「ファミリーマート」へのブランド転換は順調に進捗し、2018年11月までにワンブランド化が完了する予定です。

転換作業と同時に、各チェーンがそれぞれに構築していたサプライチェーンの最適化も進めています。製造・物流拠点を整理・統合して効率化したうえで、今後は収益力の向上や商品の質の向上に資する新規投資を行っていきます。

